

カトリック山手教会月報

やまて

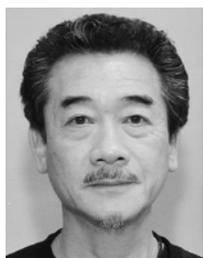


編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第592号 2019年2月10日

「宣教という神のわざ」

主任司祭 ミカエル鈴木 真



久しぶりに、クリスマスと元旦を山手で過ごし、改めてミサの規模の大きさを実感しました。

司祭になってからずっと信徒数1000人以上の大きな教会に赴任してきましたが、やはり2000人を超えると違いますね。また、山手という場所柄でしょうか、信者でない人のミサの参加が非常に多いことにも気づかされました。それにしても、24年前はこんなに観光客が多かったかな？とってしまうほど、観光で訪れる方が多いと感じます。まあ、もともとこの周辺はどこもかしこも観光地ですし、歴史的な場所が多いのも事実ですが、世の中高齢化で元気なシルバー世代が増えたせいでしょうか、中高年の団体さんが多くなったようにも思います。加えて前号にも書きましたが、やはり山手教会の歴史の重みというものもあるのでしょうか。日本再宣教の拠点として、ここでのパリ外国宣教会の方々の働きとフランスとのつながり、チェコの有名建築家の設計による聖堂などなど、カトリック教会が、まさに世界とつながっていることを感じさせる要素が山手にはあふれています。そういったことに興味を抱いて山手教会を訪れる方が多いのであるなら、それはまさに神さまによる宣教のわざに他ならないのでしょうか。

いつも思うことですが、「宣教」の主体は神ご自身

です。わたしたち人間はその道具。「わたしたち」が何かをするのではなく、「神さま」がわたしたちを、そして色々な人を通していつもはたらかれているのです。以前「神の国種まき論争」というのがあって、ある人は「種を蒔くのは人間のはたらき」と言ったのに対し、別の人は「種を蒔くのはあくまで神さま、わたしたち人間はその実りを刈り取る」という議論がありました。わたしは文句なく、後者を支持します。そう考えると、観光で訪れる方々が多いこの山手の地も、神さまのはたらきの場なんだなあと思わざるを得ません。しかしあまりの観光客の多さに時々面倒臭いと思ってしまうこともあります（中には単にショートカットのために教会の敷地を横切る人も少なくない…）、教会がすべての人に開かれた神の家ということを常に頭において、訪れてくださる方々をいつも快く迎えることができればと思います。どうぞ、皆様のご協力をお願い致します。